



酒匂川と富士山

# 富士山溶岩流で宮下水源全壊の時、「飲料水」は確保されるか



質問者  
田代 実 議員



令和4年度松田町上水道事業会計当初予算で、酒匂川と川音川合流地点にある宮下水源に、水害対策（建屋防水）工事として2450万円が計上されました。

一方、富士山火山防災対策協議会は17年ぶりのハザードマップ改定で、噴火による溶岩流は鮎沢川から酒匂川をゆつくり流れて、松田町に7日後から57日後に到達する可能性があるとのことです。

そこで、次のことについて町長のお考えを伺います。

- (1) 松田町地域防災計画での「飲料水」に関する位置付け
- (2) 酒匂川水系における溶岩流被害に対する「飲料水」への影響
- (3) 宮下水源が溶岩流被害で全壊したときの「飲料水」の確保

(1) 飲料水の位置付けは、ライフラインの確保と応急対策の箇所に記載している。

しかし、ハザードマップの改定で松田町に溶岩流が到達することが示されたので、早い時期に富士山噴火に伴う防災対策編として、ガイドラインを策定したい。

(2) 宮下水源は深さ120メートルと50メートルの2箇所から、一日当たり3600立方メートルの地下水をくみ上げている。年2回水質や水量の調査を行い、安定している。溶岩流被害の際には水質検査を行い、安全を確認して利用していく。

(3) 宮下水源は30日後に溶岩流に覆われ、使用不能となる可能性がある。神山・中河原水源の取水能力は、一日当たり3900立方メートルあり、溶岩流が到達しないことから、惣領や庶子地区住民の飲料水に供給することができるとのこと。

## 宮下水源が全壊の時、中河原水源より供給

A



回答（町長）

# 子どもたちに支援が求められる施策について問う



質問者  
南雲 まさ子 議員



(1) ハイリー・センシティブ・チャイルド（HSC）は、生まれつき一倍繊細な特性を持つ子どものもので、周囲から理解されず不登校になることもあります。そこで、学校現場でのHSCの支援についてのご見解を伺います。

(2) ヤングケアラーは、家族にケアを必要とする人がいる場合、大人が担うような重い負担を負う18歳未満の子どものことで、実態把握と支援体制の整備が重要だと思います。

(3) 50人に1人の子どもが弱視であると言われ、6歳頃までの早期発見・治療が大事とされていて、発見には専用機器を用いての屈折検査が有効とされています。そこで、専用機器導入についてのご見解を伺います。

## 子どもたちに必要な支援を進めていく

A



回答（教育長・町長）

(1) 中学校は毎月1回、小学校は学期に1回、生活アンケート調査し、HSCの子どもたちに限らず、全ての子どもたちが安心して過ごせる環境づくりに取り組んでいる。その中で、支援が必要な

児童生徒に対しては、スクールカウンセラーに繋ぐ等、より良い支援方法で対応している。今後は、教員がHSCを理解できる体制を整えていく。

(2) 夏休み前に、小学生、中学生向けのヤングケアラーのチラシなどで、周知啓発を図っていく。支援体制として、必要な対応ができる連携体制で対応する。

(3) 屈折検査専用機器は、高価な物である。今年度は国の補助が2分の1なので、導入については、広域で共同購入する方法や、二次検査を委託先に依頼するなど検討する。

松田中学校授業風景

